

キラッと光る丹波市の「人・もの・こと」のええなあを紹介します。  
地域密着型のものづくり  
**しめ縄づくり職人 藤林一己さん夫婦**



ものづくりが好き  
キーワードは「楽」

個人宅や神社に飾る「しめ縄」をつくる藤林一己さん夫婦。約2カ月かけて、家族とともに約2,000個以上つくりまわす。しめ縄のほとんどは市内で飾られ、お正月を迎えます。

忙しく製作していても、いつも笑顔の藤林さんに、「しめ縄」づくりの魅力が語ってもらいました。

**友人のすすめで製作を開始**

しめ縄をつくり始めたのは7年前、家業の瓦屋を辞めた頃です。じっとしているのが苦手で、辞めてすぐ、小菊の栽培を始めました。出荷が終わる9月以降にできることを探していたところ、友人にしめ縄づくりを勧められました。今は、個人宅や神社などの玄関に飾る「しめ縄」などを約2,000個、鳥居に飾るものもつくっています。

販売先は、東京・京都・大阪・神戸などありますが、市内の直売所と顔見知りが多い地域の密着型です。地元からの注文書は、広告の裏やメモ用紙。2回目以降は「昨年どおりや」と口頭注文なので、5年以上前のメモも大切に保管しています。

**大変なわらの管理**

僕は、年間スケジュールが決まっています。常に何かをつくっています。ものづくりが好きなんです。材料のもち米を5月に植えて、9月に稲刈り。刈ったわらを丁寧に干した後、しめ縄づくりが始まります。

わらの管理が本当に大変で、気を抜くとカビが生えたり、変色したりします。しめ縄の出来映えはわらにかかっているの、いつも神

経を使います。しめ縄は、新年を迎えるために飾るものなので、少しでも良いものを届けたいですね。

**家族みんなで楽しむ**

しめ縄づくりは決して一人ではできません。神社に納める3mを超える大物など、基本的に2人1組で縛ります。繁忙期になると1日中、妻と一緒につくっています。娘や孫も手伝ってくれます。先日は義理の息子にも手伝ってもらいました。家族みんなでつくるのがコミュニケーションになって楽しいですよ。けんかをしてる暇もないです。けんかしちゃうとしめ縄がつくれなから。

**新年を迎えるお手伝い**

くたくたで新年を迎える僕の一歩の喜びは、自分の作ったしめ縄が飾られているのを見つけたことです。「あそこにも、ここにもある」と見つける瞬間は、本当にうれしんです。神社に納めたものも、見かける度に気にしています。

皆さんの新年を迎えるお手伝いができていると思うと感激です。これからも頑張って届けていきますね。